

令和元年度 実施事業の概要

施設名： 国立妙高青少年自然の家

教育事業名： 「MYOKO ボランティアキャンプ」

期間：令和元年6月1日（土）～6月2日（日） （1泊2日）

対象及び参加人数：自然体験活動や青少年教育に興味関心のある者 35名（大学生）

目的：

講義や演習、野外体験活動等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

事業概要：

「MYOKO ボランティアモデル」を基に、ボランティア養成事業として実施した。上越教育大学、新潟青陵大学、信州大学等から35名が参加した。

ボランティア活動の技術では、課題解決型野外炊事（びっくり野外炊事！）を実施し、かかわり合いながら通常の野外炊事では学ぶことのできない視点を持ち、学ぶことができた。また、10名の先輩ボランティアが支援し、触れ合うことで、参加者にボランティアの魅力を十分伝えることができた。

成 果：

機構の共通カリキュラムをもとに事業を実施する中で、ボランティアに対する理論や知識を習得するとともに、アイスブレイクを行うことで、35名の参加者がコミュニケーションを十分にとれるように進めた。平成28年から実施している、「妙高独自の指導者養成制度の構築」の一環で作成した「MYOKO ボランティアモデル」に基づき、先輩ボランティアがロールモデルとして機能し、ボランティアの魅力を十分感じてもらうことができた。

今年度は、上越教育大学、新潟青陵大学、信州大学等の複数の大学・高等学校の学生が参加し、多様性のある効果的なグループワークを展開することができた。

また、ボランティア活動の技術においては、課題解決型野外炊事を実施し、通常の野外炊事では学ぶことのできない体験を提供することができた。さらに、プログラムの持つ教育効果が生き、集中力を切らすこと無く実施することができた。このプログラムは参加者の独創性と意欲を育むプログラムであるが、参加者の社会人基礎力の醸成につながる取り組みでもあったと考えられる。

新潟青陵大学・中野講師の講義では、ボランティアの意義について、グループワークを通して学ぶことができた。体験と振り返りをこまめに繰り返しながら、充実した2日間のプログラムを展開することができた。



どの食材にしようかな。



おいしいごはんができました



中野講師の講義の一コマ



先輩ボランティアの発表

課題：

今年度も一定の新規ボランティアの確保ができた。今後も引き続き「MYOKO ボランティアモデル」に基づいた取組を実践していきたい。参加する学生の大学が固定傾向にある。今後、幅広い大学から参加者を募っていく。

加えて、今年度から受入を開始した高校生のボランティアの確保についても、近隣の高等学校等と連携していきたい。